

またまた

東北 復興日記



▶▶▶ 181

「なぜ憎き東電と一緒に活動するのですか」とよく尋ねられます。賠償や除染、復興推進などを担う東京電力福島復興本社(二〇一三年設置)の石崎芳行代表との出会いは昨年七月。JKSKの第八回車座交流会に参加し、東電の対応拠点となったJヴィレッジを視察した際に対面しまし

ベテランママの会代表
番場さち子さん



東電と活動し本音再確認

た。「福島復興本社って何しているんですか」。素朴な疑問が湧き上がりました。

「(福島県の)南相馬で罵声を浴びる覚悟がおりながら、講演しませんか」。石崎

代表に持ちかけたのは私の方です。出会って二カ月後にはトークイベントの段取りが整いました。地元の反発に遭い、東京・駒場にある私の事務所で非公開で行いました。

それでもやはり南相馬で行いたいという思いが捨てきれず、地元で活動するボランティア団体「復興浜団」の上野敬幸代表を講師に、昨年十一

月末、開演の運びとなりました。写真。上野代表の壮絶な体験や石崎代表の福島復興への覚悟にも似た発言は、参加者の胸を打つものがあったと自負しています。

震災から五年がたち、「五年の節目」とか「五年のきりで」とか、よく言われましたが、私たち被災地で暮らす者にとっては、何が節目なのか分かりません。多くの企業が

や団体が、そろそろと撤退を表明し、復興庁も助成金を終了し、取り残された思いだけが寂りよう感となって残ります。誰か伴走してほしいと思

って見渡してみても、皆さん生業に忙しく、被災地に構ってられないといった風情を醸し出しています。

東電の体制には今も疑問が残る場面が多々あり憎き対象ですが、ならばしっかり最後まで福島と共に歩んでほしいというのがせめてもの願いです。皆さまの前で公言していただくことは、東電側の本音や思いを再確認させていただく場にもなり、現場で共に汗を流す社員には同志のような思いも芽生えている五年の年

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

